
*** タエナギ ***

うりぼう G

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タエナギ

【Nコード】

N9137U

【作者名】

うりぼうG

【あらすじ】

借金まみれの日本
救うのは個性的なタキシードを着た「死神」か又は平凡育ちの少年二人なのか？

借金大国日本・・・ 最初で最後の大決断 ⅡデッドゲームⅡ（前書き）

デットなメンズが借金まみれの日本の救世主！？

離れ離れになる人々の絆

タキシードなのに、アニメスティック？？

15歳男子やはり脳はチヨイエロ

はあ・・・ いったい誰が日本を救うんだろう

借金大国日本・・・最初で最後の大決断 ⅡデッドゲームⅡ

ああ 神よおおゝ

神様よおお

これは夢？まさかこんな日が来るとは・・・

イツツハーレム

「汰衣^{たえ}ちゃん」

いやあ右向けば色白黒髪ちっちゃスリムんむんなクリッとお目々のお人形さん

いやあ早口言葉にもなっちゃいますよね

「汰衣ええ」

僕う左向け左！！

はい！せえんせい

これまた背が高くて眼鏡してるウゴア！

ってなんつつ格好してんですかあ！

ヒーフーミー**

ああもう辛抱たまらん・・・

「もう煮るなり焼くなり好きにしてえゝゝゝゝゝゝ」

クンクウン

なあんか臭い？

煙草・・・って僕15歳だし。

はあウ！！

ああ神様よお！健全なるロマン派汰衣から奪うのですかあ
ハヤー口でえ祈るゝ ああ僕は祈る祈るゝ

いやああ覚めていくゝゝゝ 夢なら覚めないでえゝ*****

そう・・・そこは現実世界。空想や妄想願望あらゆる物語が交差して成立する

【夢】

そしてそのしがみつきたい非現実をこいつはライターという人類最強凶悪兵器で

「やりおった（泣）」

こいつの名前は、葛城^{かつらぎ}凧ぎ多くね・・・

残念だが男だ・・・

こいつは3個上の18歳

この辺じゃ名前も通おる

汰衣凧でなっ` ``

凧「焼くなり好きにしてえって叫んだだろが。つか、汰衣はあ良くグガアグガア寝れるもんだぜ。俺達、今、原宿に潜伏中だぜ。。聞こえなかったのか？」

凧は百均ライターで煙草に火をつけ、僕に煙をはいてきた

「ばかつ凧！まだ未成年だろゝしかも煙むけんな」

ハゝアッと大きく吸った凧は、何かに憑依されたかの様に真剣な眼差しを向け・・・

「また一つ潰れたぞ` `` 今度は新宿が吹き飛ばされた!!」

きゝゝゝ

新宿が・・・

ガタガタと体は笑い背中に氷柱が刺さるような感覚

原宿↓新宿

目と鼻の先とはまさに・・・

ザーザーゝゝゝゝ

電波をとらえた様な周波数・・・

今、僕は、1日二回

am0pm12時にこれを聴かされる

アイウォンチュー

あいニードウユ

「ハイ！ハイ！ハイ！ハイ！はい駄目えアウトアウトゝゝゝ残念小
ゝゝ♪残念チュゝ♪愛しの新宿陥没チュゝ」

白のタキシードに、黄色いバンダナ、
パンツも、ハーフサイズ

綺麗に処理済み生足にタップシューズ

に・・・アニメステイク??

画面と言う画面を電波ジャックしまくるのだ！

つつか何処の国のオタクだよ　　ゝゝ

「わたくしの名前は・・・デットメーン　ゝゝ　アハハアハハ本当は
ね【ジューン】っていうだあ本当ダヨだけど　ちっちゃいから、自
分の事【“デットメーン”】って呼ぶんだよ　ゝゝ　アハハアハハ
可笑しかったら笑えば良いさあ。」

恐怖とは非現実的に曝されると倍増する
そのメカニズムを計算しているのだろうか。。。

彼奴の眼は

「死神」そのものだ

ジューン「借金まみれの日本人共、現在の進行状況。 たったの3日で日本重要機関2割壊滅、うちの社員討伐率6人中の0人・・・楽しませろや」
カス「ザザ」

ふざけんなあ！！！！

気付くと僕の右手は血だらけだ！頭にも昇る怒り

「チョ、汰衣テレビ壊すな、今日の指令が」

うるせい

怒気が舞また体が震えた！！

荒々しく着替えをし

携帯を・・・携帯は今では電波ジャックの道具でしかないが、携帯はバッグに入れた

「オオ、おい汰衣何処行くだ」

「近いし、行ってくる」

借金大国日本・・、最初で最後の大決断 ⅡデッドゲームⅡ（後書き）

1日二回・・・指令が

クリア出来なければ
死の鉄槌が降り注ぐ

近未来に行われるだろう

借金から逃げられない日本の最後・・・

*** 2話*** **耐えと汰衣**

三日前・・・

地獄は地獄の方から忍び寄ってきた

僕には、妹がいる。

もしくは、いた。

平凡な僕達は実は埼玉県に住んでいた。

その日父は珍しく休みを取ったので、河釣りでもしないかと、提案。

思春期の僕は、其れほど乗り気ではなかった。

むしろ中1の妹の方がそれを喜んだ

新宿への塾通い。埼玉県とは言え場所によつては、30分もあれば行けてしまう。。

しかしまあ勉強が出来るとはいえ、中1のましてや娘に、良く新宿の塾を許したものだ・・・尊敬を謙遜しつつも、車に乗り込んだ

こいつの名前は

多野間 茜（たのまあかね）

おっと僕の名字お初で

多野間 汰衣^{たのまたえ} た多いな・・・

「なあ茜・・・何で釣りなんか興味あんだ」

「別にいい」

くっゝ 別にいつてなんだゝゝ

その日は絵に書いた様な、てか 絵でかいてるだろが！！ポケッ！

みたいな晴天

・・・

ザー　　はい？

「雨！！」

雨だねえ（泣）劇的突発性豪雨つとでも言いましょうか

その日　釣りは遇えなく中止になり、僕らは予定の旅館に予定外の時間帯に母も含め四人で羽を休めた

「栃木とか久しぶりねえ汰衣ちゃん明日は晴れるよお」

ちゃんって呼ぶなうっとうしいな

「なんで晴れるって言い切れんだよ今日の予報だって晴れのはずだぜ」

空気が見えるとは、良く言ったものだ。僕の言葉に場はシラケたなんて・・・

「KY」

と妹が呟く

ちっなんだこいつ！可愛くねえカワイクネエカワイクネエ・・・

今思えば、僕は後悔しているのかも知れない。何故素直に父の提案を喜ばなかったのか、何故母に冷たくし、何故妹にあんなに嫌われてしまっていたのか・・・多分その理由は簡単で・・・

一瞬の出来事だっ

た・・・

ただ　ただ眩しくて　儚く切なくて・・・

あれえ父さんどこ

かゝ　母さん

ああ　あか

「茜！！！！！！！！！」

空に舞い上がる天使の羽を掴み損ねた様に

叫び散らした！！

「先生！！意識が戻りました！！こっちお願いします。先生こっちだこっちだっつてんだろ！」

何？

「脈拍低下！」

「先生〴〵新規の患者78名だそうです」

！！！！

「断れ！断れ全くどうなってんだ〴〵応援部隊はまだなのか！！」

鳴りやまない緊急電話、泣きじゃくる患者達、パニック状態の看護師、胸ぐら捕まれ殴られる先生

「ここは、廊下だ病院の廊下だ！そこに夥しい程の人ひとヒト人〴〵人！！」

まるで

地獄巢だ！！

「汰衣！！解るか俺だ！！解るよな解るだろ！おい、モタモタするんな先生、」

「あああ風。どおしたんだこの騒ぎ・・・何あつたんだ」

僕の質問に戸惑いを隠せない風は、覚えてないのか？と言い

僕の送ったメールで

「かったりい。今栃木だしい海なら水着おねえちゃん期待70%越えだけど、あの親父、山選んだんだぜ、馬鹿かつつの」

を見て駆け付けたと言っただ・・・

ザーザ、キー

カチューシャ外しながら

「わたくしゝゝは振り返った!!どうも諸君ゝゝ」

「うゝ気持ち悪携帯が、行きなり変な画面にゝゝななゝゝ誰だよこのタキシードの男!!!!!!」

「エブリバデェリ初めまして今から散り逝く・・・”人間様”わたしデッドメーンと言う名のジューンというのよ”HEY Johnny”って呼んでねゝゝゝゝゝゝ」

柄の悪そうなおじさん達が立ち上がる

何なんだゝゝコイツは馬鹿にしゃがってゝゝぶっ殺してやる

ジューン「はゝ説明会も開けないのね・・・この国は」

えっ!こっちの会話聞こえてる?

犠鴉　ゝゝ

悲鳴！！！！！

人殺し　ゝゝ　誰かが相棒を　ゝゝ　ウバアガ！！！！

ジューン「気をつけてね　こつち側の人間6人居るんだけど・・・
わたくしに、惚れてしまっていて・・・だって惚れ薬毎日飲ませて・
・・・うゝゴホン　まあつまり、常にお前らの命はわたくしが」

お金で買っちつたから！！！！

・・・買った

買われた　売買　金で

【命】を・・・

「なんの冗談だよ・・・」

「おい汰衣止めろ！お前もみただろ！あのヤクザ風の」

汰衣「なんの冗談だよって言ってんだ！！！！」

尻は奮い起つ僕の体を押さえ付け

耐えろゝゝいいから今は耐えろゝゝ
と言った

さあ始めよう【デッドゲーム】

日本消滅がかかってるんだぜゝゝゝ

* 3話* 汰衣と茜

【デッドゲーム】の制裁とは1日二度出される指令をクリア出来なければ、衛星から光の鉄槌が落とされるという仕組み・・・

日本攻撃の初めての的が3日前の栃木那須周辺・・・その後全国で何カ所か、落ちたらしい。その度に物凄い数の人間が・・・

今回は新宿僕のすぐ近くで二度目になる

栃木で離れたなれになった家族・・・家の方にも。戻ってきた来た形跡はなし。

新宿・・・

妹が埼玉からわざわざ、通っていた塾。それが何処かも解らない・・・

だけど胸の痛みや単調な生活に戻れぬ恐怖から解放、または追放去れたい程

しかし言い表せなく・・・

そして誰かに

会いたくて・・・

じつとなんて、して居られなかった。

たまに行つてた明治通り沿いのスターバックスを通り少し歩いただけだ、

啞然とした

煙が立ち込める・・・

いやゝゝ新宿ってこんなに・・・

広がったっけ・・・

もっところ、凝縮されたイメージだった

土地なんて大したことなくて、ただただぶつきら棒に高層ビルを並べただけかと思っていた

いや先入観

しかし其所は、こう言うにはクリア感が足りないと思うが

仮に使わせて貰えば

【地平線の先まで焼け野原】だ

僕は唾を飲み込んだ・・・

仮に新宿がピンポイントで狙われたとして、僕は原宿にいた

「大久保方面まで完全に喰われてるな……」

もし、標準が大久保方面と真逆だったら……

救急車なんて今では、通らない……

医者もほとんどが逃げ始めた……

僕は被害者の中では運がいい

初回だったから対応も、良かったとまでは言わないが、少なくとも火傷薬は貰った。

でも、この先もしまた、致命傷をおってしまったら・・・

遠くでバイクの音がする

近付いてくる`´`´`´

聞き慣れた音だ`´`´`´

凧「おい今回の指令だ`´`´`´俺の口からは酷じみて、とてもじゃねえが、言えねえからよ！！紙に書いてきた。」

封筒？

凧「まあ参加する必要は全くねえが・・・もう何起こるか解らねえし。一応、目透せな`´`´`´じゃ5時には帰ってくるんだぞ。そこか

ら11時までは寝るんだからな」

解った・・・といい僕は風を見送った

今まで出された指令は5回

初回に関しては日本政府の真実隠蔽により、突如恐怖は訪れたが。
二度目からは公開された

指令

「日本政府内閣総理大臣及び、与党野党から各十名の」

「自殺を命じる」

当然クリアならず、九州地方にて数万人が犠牲に

このような卑劣で戯酷的な指令ばかりだ・・・

対デッドゲーム側の主張はこうだ

借金大国日本

この借金を全て返済させて貰った。よって快楽園新日本の立ち上げに参加してもらう・・・

お代は【命】で構いません

私達は救世主。役人共数十名さえ息絶えれば、数万人の命が助かった・・・

ツケはいずれ来る。先送りしてただけさ

さあ目を覚ますんだ国民よ

今こそ心を無にし、デッドゲームを盛り上げてくれ！！！！

日本政府側の危機の隠蔽に続き、指令の失敗に怒り、踊らされる国民は半数以上に膨れ上がっていた。。。。

僕は・・・封筒を開けた。。。。

指令

「一人っ子政策、この世のより良いDNA存続の為、ほんの0・0
1割でいいんだ。兄弟姉妹・・・同士殺りあって、有能な日本を作
りましょう」

「なんつう指令」だしやがんだよ！！0・0ってか1000人
に一人かよ！！畜生こっちは必死に茜探してんだぞ！！」

僕だけじゃない

離ればなれになった家族

再会して・・・再会してえのに

その後あ 破壊しろっ

って誰がいう！！！！

くそお

「くそお」

その場に座り込んだ僕は泣きじゃくり、どれ位時間が過ぎただろう

・・・でも、きつと長く感じて居るだけでたいした時間じゃないだろう

不意に遠くから悲鳴が聴こえた

よく耳を済ますと

あちこちからだ！！！！

「誰かあ助けゝゝ、助けてゝゝゝ」

茜！ のコエ

茜ゝゝ茜なのかあ！！！！

目を細めると、ナイフを持った女がゝその子を追いかけていたゝゝゝ

「てめえが死ねばいんだよゝゝ 餓鬼がちよつと頭いいからって、

ちやほやされあがつて、私だって頑張つて大学入ったんだからね！
「」

茜・・・違う

声、背格好は似てるがその子は・・・妹ではなかった

「お姉ちゃん。ねえおお落ち着いてさあ。ねえ・・・」

うるせいゝゝ おおおおああああいいいいあああああ！
！！！！！！

地から這いずる様に響くゝゝゝ

てめえも、私もゝゝ あの前で見てるおっさんもゝゝ 彼奴もこ
いつもゝゝ ！！！！！！！！いつもこいつも 焼かれちまうんだよ
ゝゝ

この新宿みたいにな ゝゝ 希望の『ぼ』の字も見えてこねえ
生きてて・・・何が楽しいんだアアアあああ！！

ジューン「待て待て・・・お前ら今、いったら返り討ちになっちゃ
うかもよん。ってHEY Johnnyって読んでくれよお」

ザザ・・・失礼しましたJohnny殿

しかし我々はプロ・・・まさかあんな子供に・・・

ジューン「黙り犬ぐぐぐいつから口答えするようになった
ん？おお薬足りてんのおお？？」

ザザ・・・すみませんジューンさん

ジューン「・・・・・・・・まあ良いわ。彼の目、見てみなさいささい
だボンデポー」

目ですか（；A、）

『あれは死に行く“目”じゃない』

ジューン「そうそう・・・某アイドル公演・・・今晚予定通りおこなってえね。日本のこの文化はだいすき！！分割払いは大嫌い！！！！！！いやっほい」

叫んだのはいいが

「叫び散らかした・・・が正しく当てはまる表現かしら」

グサツ
ッ
ッ
ッ

「まあ良いわ・・・私。どうにかしてた・・・妹殺してまで生き延びようなんて。最低よね・・・」

「いや・・・僕の方こそ言い過ぎた・・・ごめん」

「いやいや正確には私に罵倒染みた言葉は無かったわ・・・なんか勝手に熱くるしくなった感じ？」

グサッ

「酷いなあさつきから名前は？あつ僕多野間って言うんだ。」

「ふうん下の名前は」

「汰衣・・・多野間汰衣15歳・・・君達は？」

「15歳！！ふけてんなあ」私は赤川春19大学一年・・・妹が奈美菜ちよつと離れてて13歳」

13歳・・・茜と同じ

「おねえちゃん」おねえちゃん」怖かった会いたかったおねえちゃん」

赤川奈美菜は

赤川春の胸に飛び込んだ・・・

姉妹とはやっぱり絆があるんだ・・・

こんな指令の紙切れ一つじゃ壊せないゝゝゝ

壊されて堪るものか！！僕は決めたゝゝ

このデッドゲームゝゝゝ参加してやる

六人の刺客の打破ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

絶対にゝゝみんなを守る

この子達だつて、この子達のように僕らだつていつか・・・

ジューン「否・・・」

ギヤアアアあああああああああああああああああああああああ
あああ！！

僕は振り返るゝゝ

小さな体の奈美菜

赤川奈美菜・・・がまるで薔薇をちぎったかの様に、頭から血を流していた”””””

流していた・・・いや違う。よくよく見ると・・・

血に纏われてしまっていた……

目が飛び出しそうだった

奈美菜のおねえちゃんって声が何処までも何処までも何処までも聞こえたが！

僕は辺りを見回し！！！！見つけた

「いたゝゝゝ」 デッドの刺客がああああああああああ
ああああ何をした！！！！」

慌てた僕は足を滑らせ転び偶然にも

春のナイフを拾い走った
”
”
”
”
”
”

夢中で走った
"
"
"
"
"
"
"
"
"
"
"

その後の事はよく覚えていない・・・

ジューンはクツクツと奇妙な声をだした

『だから忠告したんだよ。わたくしのハニークック・…その少年の目はね』死に行く“目”じゃないってさっ』

* 4話* 凧と最愛の人

僕は・・・目覚めた。場所はまだしても。

凧「おっ。お目覚めかい。ヒーロー」

白ら目の僕はまわりを見渡した・・・

そこには、地毛の茶色く長めの髪。ダボダボのジャージを着て体育座りをする

赤川奈美菜がいた・・・

「やあつやあ」

何て言葉をかけたらいいのだろうか・・・

赤川奈美菜も頷く

「凧のジャージかあ。」

また軽く頷く・・・

「なあっなあ・・・聞きづらいんだが・・・」

沈黙が空気をひん曲げて足と頭がくつつきそうな間の取り方だった

「ダメ・・・だったあ・・・」

えっ!!

と、口に出してしまいそうだった・・・

風は立ち上がり背伸びして言うんだ

「ちょっと出掛けて来る」

「ちょい待つ」

「ああん」

と、凧は顔をしかめる

「いやつ。」

と静かに返す

凧「ちょっと、水やりになっ……今日も暑いし。干からびるねえ」

向日葵……

。最近の向日葵は小さくて、種類も豊富だから、見てて癒される。。。

色も豊富だし中には 菊なんじゃないかって間違える形の物もある。。。

二人になったら・・・なんて声をかけよう・・・

だってこの子のおねえちゃんは・・・

・・・

チンッ!!!!!

チンッ??レンジでチンッ??

あちゃあ　　っと聞こえてきそうな感じで尻は顔を覆った。

赤川奈美菜も、何か顔の筋肉が緩い

「なに!!」

なんかムツとする

「なに!!」

緊張の糸ってどんな糸？

僕は電化製品のコンセントの上からコンセント重ねたら、両方の電化製品動くんじゃないかと思ってたら

両方ショート

みたいな経験あり

こんな感じの系ですか？

凧「つか春ちゃんなあに、つまみ食いこころと、してくれてんの？
？シリアス演技団の団長凧さんが台無しじゃない」

えっ春！！

腰のスッゲエ低い春がドアを開け

「いやあゝ途中で気付いたんですよ、たこ焼き五分セットしたはいいけど、鳴る・・・こいつは絶対なるつと、で奇策です。メモリ0に鳴る直前配線抜いて、更に更に更に指で押さえながら

ゆつつくりゆつつくり0に持っていく」

はあ旧式の電子レンジだったのね

(; | D |) ごくろさん5963

風「全くよゝゝゝ 俺がドアを開けるまで耐えて、チアツチアチャゝゝびつくりドンキーゝゝゝゝ ってやれって言ったのにゝゝゝ」

ドッキリね(◎◎◎) まあその位の時間稼ぎなら、あえて時間MAXにすれば良かったのに、配線抜いたなら尚更・・・つかたこ焼き作るな

まああれだ・・・

面倒くせえ

「でっゝゝゝゝ 何ともないのか？赤川」

話を纏めるところらしい・・・

赤川姉

春は誰かにトマトジュースを缶事しかも500mリットルを、頭に
ストライク去れた

その拍子で気絶、気の混乱していた妹、奈美菜は、それを姉の血と
錯覚し悲鳴

悲鳴で春の死を錯覚した僕は・・・

偶然にもいたデッドゲームの刺客を追い掛け

風「ナイフでグサリッッ！！！！まあヒーロー様々だよ。今回。
レーザーの鉄槌は免除だったんだからな」

「僕・・・さあ刺したのか・・・」

唇を噛み痛みを与え意識を保ち、涙をこらえ

「ぼあゝゝゝ ぼくゝゝゝ ひつヒ人をゝゝゝ 生きてるゝ 家族もい
るかもしれないゝ いい 人を人を刺し
たんだよ・・・なゝゝゝ」

凧はさらりと爽やかに言う

『ああ。ありがとなゝゝ 汰衣のお陰で何万人も助かった・・・
ひよっとしたら俺も・・・赤川姉
妹も、汰衣のお陰で助かった。。。』

二人も頷く・・・

「おう。。」

そつだ僕は決めたじゃないか！！！！

闘つて

何があつても

デッドゲームを支配すると

風「しかし・・・不思議だな・・・誰が何のために、小細工を
いや、トマトジュースだヨ。。。まっ愛しの向日葵
葵ちゃんに水あげてくるわ」

赤川春「綺麗だよねえ・・・あの向日葵。。。。。」

あっああそうだな

赤川春「でも、意外乱暴そうな外見だし・・・あんな色々な種類の向日葵あるなんてさっ。19年生きて来てたのに、ぜんぜん解らなかった。。。」「

僕は年上の女の人に少し生意気な事をいった

「だっせいな。。。男から貰うんだぜ。。。ああいう品物はな」

って、口を滑らせた。。

誤魔化しも女の子二人相手には通用せず

本人に内緒を絶対条件で話してしまった

「栃木への攻撃勿論覚えてるよな」

二人は頷く。

実は、僕は、その初回被害者の生き残りなんだ

静寂

こえそうな程だ

今にも三人の心臓の音が聞

たわいもない、メール風に送ったんだ

まあ今、栃木ってさ

鉄槌後あいつは、気絶していた僕の目の前にいた・・・

おかしくないか・・・

僕はメールで、栃木にいろとしか言っていない・・・

僕はみての通り全治1日の火傷程度

衝撃とショックで気絶はしたが

そうそう長い時間ではないだろう。。。。

あいつは

鉄槌の前に・・・

栃木に向かっていたんだ・・・

野木町向日葵フェスタで彼女と会うために・・・

だから地理も多少詳しい・・・

彼女は・・・那須付近に住んでいた・・・

勿論あの日も

風は病院で探してた人は、ぼくじゃあない。。。。

本当は・・・彼女だった。

でも思いとは裏腹に。

彼女の好きだった向日葵

彼女を好きだった風が・・・

水やって、世話して、皆を太陽の方向に導いて・・・

でも・・・風なんか最初「お店行つて」「おばちゃんですかい向日葵くれっ」て言っただけ。鉄槌でそこるかじやないのに、でも店の人も話乗ってくれる人でね。今時、そんな向日葵売ってても誰も買わないよ。今主流は小さな向日葵だよ

沈黙の後、多分風から、ただならぬ覇気を感じ取ったんだ！飲んでた珈琲を置き生き生きと、おばちゃんは！！

『あんだゝこいつら。あんたが生きてる限りは大事にしてくれるのかいゝゝゝ』

ああ　死ぬまで世話してやるよゝゝ

『・・・なんて事・・・はあ　ズルル
ちゃん、大人の理由で、こんな事にゝゝ　なっちゃって本当にごめんなさいねゝゝゝゝ』
好きなだけ持っていきなゝゝゝゝ

向日葵好きなだけゝゝゝゝ　全部でもいいんだよ

店員のおばちゃんにそう言われた風は・・・笑顔で言った

『ありがとうでも半分にしとくよ。だってもう半分は
〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵
もう半分の元気はおばちゃんに残
しておかなくちゃね』

赤川春「なけううウルウルウル〴〵〴〵」

「まっ正確には、まだ死んだかは、解らねえ。さっき僕
が叫んだ家族も茜・・・妹だつて死んだ証拠もないんだし
〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵〴〵
希望・・・
・持ちたいんだ。なあ春。奈美菜。」

春「希望」

奈美菜「希望・・・」

汰衣「あいつの向日葵。。いや」

「僕らの向日葵（希望）をさあ。みんなが帰ってきたら自慢しちゃおうぜえ！！！！」

おお！！！！！！

番外編神の声の主は葛城風「おおー！！つて今回この葛城風メインじゃあねえのか！！終わり？終わりなの？最後、俺も混ぜろや」

出番も少なくなね。おい汰衣！！ほとんどお前喋つてたぞ」

お疲れ様です

美味しかったですねチンしたたこ焼き

【お疲れ様って待て待て待ていゝゝ、僕別室でまだ水やり中ゝゝ
しかもカメラなしゝゝ　つかたこ焼き食ったんかいなあ！！！！！！
！！！！！！！！】

この後びっくりドンキー……

って汰衣から風逆ドンキーやられたのは、いつまでもないよね

*** 5話* 汰衣とジューン遂に幕開け本物の§デッドゲーム§**

そろそろ0時だぞ。
また始まるんだ

【デッドゲーム】が

ザザ-ザー

スキッて言葉は最高さ

スキッて言葉は最高さ

ジューン「フエイハイハイ感情吐き出して今っすぐ屍になれえ
”””クックツ可笑しいね楽しいね”””最近成績うなぎ登りだ
よお”””」

足は落ち着きを覚えずタップ”””更にタップエンドウ豆ターン!!

ジューン「ああああマイクテスト1ワン”””2トウ。”””1”””1”””ええ
選抜メンバー及び、新ゲームを発表します。まずゲーム内容か

ら

新感覚ボーリング

7人vs7人で闘う

成績優秀チーム

vs

デッドゲーム支持派

おっと、この中に刺客を一名含むからね 討伐の大チャンスになりますぬん

×バツカードを42枚テーブルに

ストライク又はスペア（注スペアは投げ手が移行する為、敵に優位になる事があります）で好きな子に×をつける

又は好きな子の×を消滅させる

ガーターは、自分に×

×三枚ついたものは、その場で

§デッド§つまりあの世行きゝゝ

まあ安心したまえ。そうそう三枚は揃わないバスだから

バスってゝ 噛んだゝゝゝ はずだから

はずはず恥ずかしい

理由は簡単、ストライクで同じ人に付けれる×は二枚目まで
つまり集中攻撃の防止。

いくら刺客とはいえ、バレて集中されたら 蟻さんになっちゃう
からね

クックックゝゝゝ

何故、蟻なんだかわかりましえんが

結論

『死に行く者は自らの手で・・・』

ガーター ∞

勝敗は生き残りの人数また、ドローの場合×の権利を多く取得したチームとなる

勝利品は、刺客の首

惨敗の時は、光の鉄槌・・・

尚 ゲーム途中でのゲーム以外での刺客討伐した場合会場事ドカ
ン、ン、ン、するから気をつけてねえ

ルールに乗っ取って刺客を討伐した場合 その時点で

WIN

さあ×が無くなるまで、必死こいて闘うメンバー紹介

No 1

多野間汰衣 15歳

やはりい刺客討伐第一号は外せない、

No 2

大柳早乃蔵 おおやなぎさのぞう 35歳

九州地区鉄槌後何度も、刺客を追いつめた豪腕の持ち主

No 3

綾鷹 優乃あやたか ゆうの 21歳

若手 No 1 女優

単純にこのジューンの好きなタイプですよ 胸は小さいんですけど。
。 目力が凄いです お勧めです。

いやあ胸は小さいんですけど

No 4

屑霧豪矢 矢くずき りごーや 18歳

いやいやあ沖縄から来ましたゴーヤです

以後お見知り置きを

とか言いながら

だっぺえだっぺ

の栃木人 栃木で世話になった多野間汰衣君の病院の委員長の息子
医院長じゃないから

病院通いのただのどっかの会社の委員長の息子さあ因みにだっぺつ
て茨城県じゃねえ 〴〵これ勃発ね栃木vs茨城

クックツ

No5 ジューン

沈黙の場に一気にどよめきが押し寄せた 〴〵〴〵

ジューンが参加・・・

不公平に繋がるじゃないか 〴〵〴〵

クツクツく

笑いたきや笑えばいいのだあ!!!!!!!!!!

最後に

NO7

葛城凧18歳

理由は多野間汰衣の噛ませ犬？

凧「チョイ待てえいゝゝゝゝ俺も主役じゃねえのかゝゝゝ 噛ませ犬ってなんじやいいゝ引き立て役かゝゝゝ そおなのか!!!!!!!!!!」

ジューン「あっ！」

凧「なんだよお」

ジューン「男・・・」

凧「男がどうしたよ」

ジューン「参加者男6名多くないクツクツなあ君」
菜とチーンジ「」
赤川奈美

チーン「」

汰衣「まあまあ落ち込むな凧、ゲームの横から口出せば良いだけだし……なっ。って」

凧「ドオスセ噛ませ犬だし……ドオスセドオスセ……」

ああすっげー落ちたなコイツ……

NO7

葛城凧に代わり、プリーティーな
赤川奈美菜13歳に決定!!!!!!

奈美菜「ええ・・・私嫌だよう。。・・・」

では始めようか諸君ゝゝゝゝゝゝゝ

「デッドゲーム」を

*** 6話* 汰衣と奈美菜新感覚ボーリング**

本当の地獄はここから始まる。ゝゝゝゝ

支配人ジューンのペースに飲まれては勝ち目はない。ゝ

勝てば問題ない・・・が、負ければ、僕らの・・・

それどころか数万人に光の鉄槌が堕ちてしまう・・・

デハ、ワタクシ、シキラセテイダキマス。コンピューター、ノ、
ピュータ、デス、ピータ、ット、ヨンデクダサイ!!

どうしても言いたかった事がある

汰衣「皆さん・・・聞いてくれませんか。」

僕はジューンを除く仲間を集め言う

汰衣「大前提は、助け合いで行きたいのですが。例えば×二枚にな

「つた人の×を外すを前提……とかです」

自信はなかった……僕にだって解らなかった。でもこの提案に真つ先に反対した人はいた。それは山田組長だった。

「守りの一手じゃかなわぬ敵もおるだろう。若い者には賛成出来んなあ。先手必勝!!」

九州出身の大柳早乃蔵も同意件の様だ。僕らの作戦タイムに水指す様にゲームは始まってしまった

ピーター「では1投目多野間汰衣様」

1 投目えか・
・
・

不安ばかりが頭を支配し始めた。もしガーターだったならば……
 ……×がつく……… もしも、最初から失敗したら……
 みんな……皆に不安を与えてしまふ……

「しみ出る冷や汗」
「グルグル世界が廻る感覚」
「」
「」
「」

聞こえる心音は異常な程に、唾を飲む・・・しかし口は渴いていき
ゝゝゝゝゝゝ

初投を放った

投げた瞬間解ったゝゝゝゝゝゝゝゝ解ってしまった。まるでそれは地獄から手が出てきて僕の体にしがみ付き笑らわれている様に、
尽き果てた吐息の先に、僕は目を背ける

僕の初投はガーターだった・・・

次に耳に入る華麗なピンの倒れる音

僕はずっと震える手を睨み付けていた

ピータ「さすがにエージェント様ストライクおめでとう」
「汰衣様」
「ピンチデスネ」
「さあお次は、大柳早乃蔵様」
「ハヤクモ」

早乃蔵「ああジューン」
「覚悟しろよ」
「こんなもん九州男
児の気合いで」

気合い？そんな甘くはない・・・

こいつはただのゲームじゃないんだ

山田組長「くう」
「兄ちゃん惜しいな」
「腕がなるな4番6番のあの形」
「まあガードー恐くて端攻め
めきれんだろ」

セメキレナイ？ワラワセルゼ

ピータ「ビースト様お見事スプリットクリアだぁ」さあさあ×
をどおする????????」

ビーストとは、相手チームのプレイヤーの
名前・・・

エージェント

ビースト

ハンター

ピエロ

ゴーレム

アイドル

ジェネラル

この中に刺客が一人潜んでいる」

皆仮面を被り判別不能

ビースト「赤川奈美菜」

奈美菜　　〃　〃　〃　〃　〃　〃　だつて

どうして　　〃　〃　〃

ピータ「赤川奈美菜様！ご指名入ります　〃　次。綾鷹優乃様お願いいたします」

汰衣「奈美菜　〃　〃　気にするな。　まあ　〃　まだ、ヒ　〃　一つ目だしな　〃　〃　そつそれより。　綾鷹さん　〃　〃　つ　次、平気ですかあ？」

目を丸くした綾鷹は頷く。　　が、そのやり取りに納得行かない男が、意気揚々と僕の胸ぐらを掴み罵声した

山田「小僧が色目使つてんじやないぜ　〃　〃　どうせ自分の×を減らす事ばかり考えてんだろ　〃　〃　元に呂律回ってないじゃないか　あああ！！」

僕は引き腰になってしまい、言い返す事に恐怖を覚えた

いや・・・本当は

ホントハゝゝそれは正解ゝであつて 僕が助かりたくて

タスケられなくてもゝゝゝゝゝゝ 自分さえ サエ サエ
助ければ・・・。

葛城 凧「ちがああああああああああああああああああああ
アゝアアゝアアああああああああああアアアゝアアアあああ
あああああうううう！！！！！！」

凧「汰衣は絶対そんなやつじゃねえ！！！！！！」

赤川 奈美菜「うん。違ふと思うゝゝ私も助きたいゝゝ」

凧ゝゝ

奈美菜・・・

汰衣「なみなゝ お前、今×付けられたばっかで、気つかうゝ 氣
使わせちまうなんてゝゝ 情けねえ・・・・・・」

僕は胸ぐらの手を払い飛ばした！！

『凧iiiiiiiiiiイイイゝ イイイ！！！！！！！！！』

汰衣「僕は、凧が友達で本当にゝゝ 良かった。。。 奈美菜も、
春もなあ・・・・もう友達だあ」

凧「今さらだなあ馬鹿」

僕は綾鷹優乃さんの前まで走り寄り

汰衣「失敗してもいい」ガーターだって構わない
。必ず仲間がその×消してくれるからだから

『おもいつきり投げてこい!!』

汰衣君「想いは届くんだね

やったよ」

ストライクウだああああゝゝ

僕と凧はガッツポーズし 奈美菜は拍手した

その拍手に乗せられたか傍観者達も拍手を

山田組長も開いた口を開けたまま、軽めの拍手をしていた

綾鷹優乃さんは、すぐに、僕の×を取ろうとしたが

僕は

汰衣「その××××× 今は取っておくんだ×××××」

この言葉に会場はどよめいた×××

凧「おいおい××××× 汰衣何言ってるんだ」

このゲーム・・・

まだまだ先が深い気がした

汰衣「今の僕はガーターは絶対出さない。心理的に追い詰められない限り××× 平気・・・それよりも綾鷹さん・・・ちよつと耳かして貰えませんか」

凧「あつ汰衣のやつ綾鷹優乃さんに××××× ふう優乃さんさすが

に女優可愛いわぁあ」

僕は心の打ちを綾鷹さんに耳打ちした・・・

僕はずっと見ていたんだ

死神ジューンを・・・普段オチャラけた ジューン。。。。

僕を

見る時の目

「死神の目」

ゲームを始めた時と、現在では

キレイ、が違っていた

だけどなあ死神、

胸ハレ、僕、

腕伸ばして指差せ

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
あああああ　　！！！！！！！！！！　奮い立たせろおおあああ

「だけどなあ死神」

挑んで来た奴が悪いんだ
§ § §
僕に遊びで

7話 汰衣とゴーヤチャンプル新感覚ボーリング第二話

祝福モード全快**

は、ほんの数分程度 だった

それを絶ちきるのは、やはりコンピューターの通称ピータだった。
。。。が。。。追い上げモードは、一度突入すれば早々終わる物ではなかった

ピータ「惜しい。。。ハンター様僅かに1ピン残し。。。これはチャンスになってしまっうんでしょうか。。。お次は屑霧豪矢様どうぞ！！！！」

ゴーヤ。。。

頑張れ ガンバレ

豪矢` `` スペアだ

イける絶対に` ``

うるさい。。。。

みんな自分勝手だ

柵の外から、外野から好き勝手言いやがって。。。。

ボクハあの汰衣って子とは違う・・・

期待しないでくれ……

《綺麗` `` `` `` こんな海見た事ないよ` `` 栃木じゃ考えられない` `` \*\*透明感\*\*` ``

日射しが凄いのにな、暑くない!!!!!!

いやいや暑いけど、本当は暑いけど爽やかっって言つか……

父さんあれが噂の

「ああシーサーだ。沖縄の守り神だ` `` `` `` `` `` `` `` `` `` `` ` ``」《

なゝゝゝんで今さら

今さら思い出すんだよゝゝ どうでもイイどうでもイイのに

《「なあゝゝゝ 豪矢!!!!!!!!!!」

万辺の笑みをした父がシーサーを指差し言うゝゝゝゝ

「シーサーにもオスメスあるんだぞゝゝゝ 知ってたか？」
僕は首を軽くふる

「父さんも母さんに教えて貰ったんだけどなゝゝゝゝ ほらっあそこゝゝゝ と、ええあと、そのの」

違い・・・なんか。確かに色は違うけど、それは、祈願する事柄が違うって母さんが言ってたし

「色・・・かな」

「豪矢色じゃない。よく見ろ。。。」

「く・・・口？」

「大正解だ、。。。。あれはなあ、口をおおおきく開ける方がオス。。。。慎ましげに閉じてるのがメスだ」

「それだけゝゝ」

「それだけじゃないぞゝゝゝ 口を閉じたメスは、幸せを逃がさないようにゝゝゝ つまり母さんが、豪矢と父さんを、包み込んでくれてるんだ！……！！！」

「口を開いたオスつまり父さんは幸せを呼び込むゝゝゝ 大きな口開けて

幸せはとこだゝ

幸せはいねがあ

幸せはいねがあゝゝ つてな」

「父さんそれじゃあ“なまはげ”じゃん」

「まあつまりだ」……父さんが豪矢をこの家族に選んだ！！
「！！！！そして産まれた」……神秘的だろ……こんな話……
家じゃ話せないよな」……「こういう広い海眺めながら、男と
男は絆を深めるんだ」……「きつと豪矢もいつか、同じ海見て、
嫁もらって、子供産んで」……「そうやって人間は。。。何万年
と何億年と、幸せを感じてきたんだぞ」……「これから先も
何万年も何億年も続いてくんだ」……「……」

僕は気付いていた

トロピカルジュースをテーブルにそつと置いた母が、奥から氷を二
個持ち

忍び足で裸の父さんに後ろから

胸の辺りに

押し付けた

「うわっ　　　つめて　　　」
「何しやがるこんちくしょう……！！！！！！」

「アハハ貴方酔つ払つてゐるの、まだお酒飲んでないのに」

父の笑いが母の笑いを誘い、母の笑いが僕の笑いを誘う

こんな毎日を

平凡な毎日が・・・

あるって言ったじゃないか。

今の僕の目に写る父母は餓削

運よく父の通院していた栃木の病院に居たため

初回の鉄槌からは逃れたが・・・

自宅・・・学校

父の会社

友達の家・・・友達

近くのコンビニ・・・そこで本ばかり読んでた墮落な店員

商店街の八百屋のおじさん

僕の大好きだった。

フレンチブルドックの

“シーサー”

皆、消えて無くなった・・・。。。。

少なからず、この場にいる全員が不安を抱き持っているのは解つて
る・・・

でも僕は弱い`´`

あの汰衣って子とは違う`´`

けどねっ本当は疎ましいだけかも・・・その勇気が疎ましかつたんだ・・・なのに汰衣は、そんな病んだ僕の心にスーって

『ねえゴーヤこれ見て。。おっかしいだろ`´`僕の胸に`´`××ばつ二つもついてるんだぜ`´`おっかしいよな。。まだ、6投目なのに、アハハハハ』

豪矢「汰衣・・・君」

汰衣「汰衣でいいよ。さっき、綾鷹優乃さんの×を保管しただろ？」

うううん？

・・・!!`´`でも

豪矢「でも何か作戦があるって!!」

汰衣「いんやあ」

『作戦は練らないが作戦』

なに!!!!!!!!!!

会場がまた蠢いた!

汰衣「と、までは言わないが、もしさ、これからさき、ゴーヤに×ついたって、綾鷹さんの×で消してあげるよ」

なんでえ

なんで

豪矢「なんでえだよゝゝ 汰衣・・・汰衣なんかもう一枚も・・・」

「そうだな」

豪矢「そうだなって！じゃゝゝ その×汰衣が使えばゝゝ いいじゃないか？」

ハッハッハ

ハッハッハ??

『ハッハッハ！！そんな事したらゝゝゝ 助けられるものも、助けられねえじゃん』

何なのこの人は

この迷いのない笑顔は
"
"
"
"
"
"
"

恐くないのか、この人は。

恐いよ。

えっ？赤川奈美菜さん

『汰衣君だって恐いに決まってる、でも生きようとしてんだよ……』

こんな中学生位の子まで、

はあ・・・よしっ僕もどうかしてる・・・こんな世界で生きてくなんて無理に決まってる・・・。だけど、今は今の僕に出来ることをするしかないんだ

父さん・・・母さん

全力！力いっぱい投げたボールは、思いを乗せレールを走った、
が・・・惜しくも、四番ピンの横を通り“スペア”ならず・・・

僕はこのチャンスを活かせなかった・・・が。

パチン　　

気付くと僕はおもいつきり　　

おもいつきり肩を叩かれた！！！！

「いつて　　汰衣何すんだ」

汰衣の笑顔はさっきのままだ！！

救いの笑顔だ！！

『よく頑張った。まあ2投目のスピア狙いはガーター扱いじゃないし、ゴーヤの勇気が見えて、格好よかったぜえ。チャンプルーが』

「誰がゴーヤチャンプルだ!!!!!!!!!!!!!!つか、汰衣年下だろ。さっきの本当に痛かったんだからね。。。。」

今は本当に

デットゲームをやっているのかな

それすら忘れちゃいそうな位。。。

楽しい

ただのボーリングでもやってるかって位楽しいゝゝゝゝゝ

人生この先も何万年何億年ってずっと

幸せは つづ

ガーターだ

!!!!!!!!!!!!!!

死神は奇笑した

ジューン「言っていなかったけどん、1ピンもとれなかった場合。全てガーターだからね！！！！」だからスプリットで真ん中狙いの逃げ腰もダメダメよん　よって屑霧豪矢君・・・君には×を、いんや・・・その心折らせて貰うよ」

悪魔の囁きだゝゝ 人生の限界地点を脳に埋めつけられて蛆虫が食
い付いてくる

だ
け
ど
"
"
"

「しあぁ、にいがみいイイ！！！！！！！！！！」

その×今すぐ消滅を命じるぞお!!!!!!!!!!

今すぐつける前にだ！！！！解ったか！！！！死神！！！！

「イイ！」

アッアゝ ヤッパリゾクゾクスる キミイイヨゝ

ジューン「ああ。わかったあああよ。全く死神って呼ばないでほしいわゝゝゝ HEY Johnny って呼んでほしいのにえ!!」

一生呼ばねえよ 馬鹿ゝ

豪矢は僕の方をちら見しながら綾鷹優乃さんに近づきオドオド言う。
・
・

「あの・・・ありがとう。なんか×二つでも、っ無かったし、後・・・あと何か作戦あったんでしょ？どんなあどんな作戦だったの！！」

綾鷹さんは首をふり、目を坦々と段々輝かせ初め

「ねえ。私達も汰衣君に。多野間汰衣君に最後まで協力しよう・
・何があっても動じない。従う。汰衣君に。汰衣君にかけて
みたくない！？」

その誘いに僕は乗った

もお動じない。これから先は、自分の為じゃなく誰かの為に闘うんだ

誰かの為なら

この命だって

『惜しくない。惜しくなんかないんだ』

番外編その2神の声はやはり葛城風

お疲れさまでえす汰衣

汰衣「ああお疲れ」

お疲れさまでえす奈美菜ちゃんと、優乃さん 相変わらず可愛いねっ

優乃「・・・はあ」

はあって溜め息すかそうなんすか

奈美菜「あっお姉ちゃん」

死神決定！！ベストマッチ

あつゴーヤお疲れ様です

なあこれから飯でもいかねえか？

優乃さんと奈美菜ちゃん誘おうっぜ

俺よく行く沖縄の店あって、結構有名なんだぜえ

そのゴーヤチャンプルがくう

鬼うまで 激うまなんだぜえ

なあ　　な

誘いに行こうぜ

豪矢「僕、実はゴーヤ・・・大っ嫌いな食べ物なんで、と言っより、あんな物食べ物として認めません・・・」

チン・・・

今日も一人フラリフラリと家路に向かう

その背中`´`´`´

疲れきったサラリー　だぞ

*** 8話* ジューンとピエロ 新感覚ボーリング第三話**

レディースエンドジェントルマン

HEYD J

HEYD J

デッデッデッデッ

「フォーピエロだぜっイエ!」

イエ!!!!

「イエイエイエ!!」

フォー

「それっそれそれそれ
」

イエー！！！！！！

凧「うわあまた、激しいキャラ出てきたなあ。カラフルに風船もちながら、つか浮いてるんじゃないねえ」

赤川春「可愛いねえ、凧ちゃん可愛いねえゴロゴロキュっおおっ
てしたいね」

！！ゴロゴロキュって何（汗）

赤、白、黒のボーダーでまとめた服

それ以上にカラフルな風船”

陽気な声
"
"
"

くるくる巻きの個性派な靴

•
•
•

どうか誰かさんと（；、Д、）

「ジューン」なんなのお
あのピいいいいエロ
目立ちガ
タリヤさあんな訳
ピエロなら
ピエロらしくお口閉じときなさいなあ！！！！ああんどじよう鱈
ヒイくう早くあんた
投げなさい！！！！！！！！！！
！ ピーター！！仕切れ早急にしければあゝイ
イじゃないよ。こんな困難聞いてないのよお

おいおい死神怒るとオネエにならないか・・・

うん（敵も含め全員一致）

、（・・・）ノ

ピータ「さあさあピエロ様のショータイム」………
「まずはでーたー」………
「これは神業だあ」………
「ボーリングのピン投げ5本いや7本」

HEYDJ

HEYDJ

ピエロ「ここから始まる伝説」それがピエロ伝説」
「目立ちたがり屋さんのPIERROTストライク」
「みたい？」

イエ！

「みたいい？？」

イエ！！！！！！

3！！！！！！

スリー」

2! ! ! ! !

トウー
ゝゝゝゝゝゝ

1! ! ! ! !

ジューン「なあ・・・」

今まで聞いたこともない様な低い声ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ㄨ いつまで調子こいてんだあ?? ㄨ

ビクッ！と硬直。。一分・・・五分・・・あっ

ピエロが服脱ぎ始めた、でも風船は手放さない

はっ裸の王さまですか

(;_D)

って、しゃがんで自らガーターに

ボーリング球入れやがった

(>。)

奈美菜「泣けうう」

ってオイ！！

つかジューン、何ですかその、「余は満足じゃ」みたいなふて節さ

おっ足組みやがった。ハーフパンツの癖してゝゝゝ

扇子！！！！！！！

どっからだしたの

(;, D,)

なんつうゝどや顔ゝさらすねん

ジューン「おっと。お次はわたくしの順番ね・・・ひょいとゝゝゝ

(;, D,) こいつなんでもありなのねゝゝゝゝゝゝゝゝ

ホワアツチアホワアツチアチアチアチアチアって球20発は撃ち込んでゝゝゝゝゝゝゝ

ほゝらほらほら球詰まったよ。そりゃデッドゲームサイドも焦り焦って汗だくやんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

んっ誰か出てきた。

誰あのバーコード頭で黒ぶち眼鏡のヒョロ親父は??

何々?ふーんボーリング場の使われ店長ね・・・奈美菜「わかるう
ゝゝ」って
奈美菜【泣けうう】バリに、言いな
さんなゝゝ
これから先感動が薄れちまう
かもしれないじゃないか!!!!まあね。ありやどおみても“使わ
れ”って顔してんだけどな

ってデッドゲーム側平謝りやんゝゝゝ

使われ店長も、ノリノリで怒り初めたやんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

横でこいつ（ジューン）ケラケラ笑うし

おおっデッドゲームサイドの人間こっち来た来た来た来た

キター（*、θ、*）古、

しかも、どっちなん？電車？織田さん？

ボツコン、

ボツコン！って死神、頭からプシューってプシューって！！更に足バタバタしながら、首根っこ掴まれてエ何処つれてくんでしょおか！？

（；、Д、）ゑゲウ死神！！使われ店長に平謝りしてんねん、

ちよっ、ちょ！使われなんですよ所詮、あなたは使われ何ですけど、ゲッ！やりおった、死神殴りおった

＝＝キラーン＝＝

キラーンってなんだよ！！あんたのストレス解消の的、えらく的外れてますですけど、って『ます』一回多かった（汗）って多くもなるわい、って言ってる間に、眼鏡キラーンキラーンさせんな

皆さん〃〃〃 オーナーさんは、別に居るんですお〃〃〃
 オーナーさあんオーナーさあん人類最強最悪の侵略者登場しちゃい
 ましたけど〃〃〃〃〃〃〃〃〃
 多分日本陥没しちゃいますけどお

「オーナー、オーナーこっちはです!!」

おっ！ やつと来たか止めてくれ
 〃〃〃 この惨劇を――！――！――！ 首にしてしまえあんな侵略者〃〃 も
 とい、あんな親父は
 皆様、御静肅にオーナ
 ーからの一言があります

めでとう Happy Birthday ヶッジョブ江頭君！給料upお

りすぎて突っ込めんわ!!!!!!

「ジューン」と言うわけで、

と言っわけでって

無理やり締入ったぞ” ” ” ”
 つて顔ボツコボコやん

(全員)

ジューン「この×は凄く考えた結果・・・苦渋の選択だった」
 「死神という地位にしながらも、心が痛むよ。」発表
 する。ピエロ！！！！お前に決めた」「」

逆怨みじゃねか

むしろお前が×つけろや（全員）

ジューン「ピエロ」 てめえ×二枚目だなクツクツく
笑えるぜえ

笑えねえ。さっきの苦渋の選択あれ嘘だな。ああ間違いない即決だったんだろ。仲間なのにひでえ

（全員）

ピエロ「ほあ本当にすみません」 ジューン様
様。もう二度と・・・目立つ真似はしません。どうかお許しをど
おおか どうか。。。」

許してやってくれ
ぎだせい
お願いだあ敵ながら哀れす

なあっ健気に裸で頭下げてんだ。助けてやってくれねえかゝゝ死
神さんよ

ジューン「あんたゝゝわたくしに被っちったからゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝやだピーん!!!!!!!!!!!!!!!!!!」つと

子供か!!!!!!!!!!!!!!（全員タカさんが、トシさんに成り済ましまし
よう）

奈美菜「泣けうう」

泣けるかあゝゝゝボケい

あああ ヤメヤメ

* 8話* はもう終わり

撤回`、撤回`、`

おい作者`、` おめえ絶対今回適当に書いただろ

* そんな事はない。。 ホジホジ*

ホジるな`、`、` なぁにホジリながら

* そんな事はない*

つてぶっこいてんじゃない!!!!!!

説得力0だあ!!

なぁ聞いてんのか!!!!!!

「次回予告組長」

ゴーレム・・・そいつは最強の肉体を駆使し

組長・・・そいつの信念は誰にも邪魔させない

ぶつかり合う男の体・・・鋼拳と鋼賢に決着の時

次回

ゴーレムvs山田組長

己の強さ見せてやる俺が最強なんだ

なんか見たことある・・・

某スロ機種で

次回予告○長ってあつたあ!!!!!!

それ風にもう一度読め

読むかボケ!!!!!!!!!!!!!!!!!!

話そらすなボケ!!!!!!!!!!!!!!!!!!

* (; | ;) / バアアイ*

番外編神の声は葛城凧

春「ねえねえ凧ちゃん今回の話のツッコミって凧ちゃんだよね」

ガハガハハ

解っちゃった？やっぱり

やっぱり主人公、風はこうじゃなくっちな

何で解ったあ

春「解るよ……だって私いつも、風ちゃんの事……」

ドキドキ ドキドキ

この展開は、
、
、
、

ドキドキ ドキドキ

この展開は読み手にバレバレの落ちでつまらねえんだ

ゝゝゝゝゝゝゝ

どおせ期待させておきながら

「凧ちゃんの雑な突っ込み聞きあきたもん」とか

「凧ちゃんの後ろの汰衣が好きなの」

とかで

ズッコーン演出（某バスケアニメ）

それならば

俺の返しはこうだ！！！！！！！！

春「じゃあ心の恋人って事で」

へえっ？

春「彼女さん見つかったら私はサヨナラ^っ^っ^っ それまで一緒にいて探してあげる。真剣に」

真剣にい。

春「そう真剣に」

そう言えばこいつ胸の膨らみ結構こつ

春「ただし、肉体関係は一切なあし！！！」

へえっ？

春「キスもその先も彼女の決着つくまでだめ・・・あと」

あと、ゴクリ

春「エロい目で見るだけでもチョップチョップチョップ電撃チョップなんだからねえええ」

うぎあああああ

こうして俺は春と心の恋人になった

が・・・しかし

チョップチョップ電撃チョップ

うはぁあぁ

目があったから、

またある時は、

パチン！「春、蚊止まってたぞ」

チョップチョップ電撃チョップ

ごはぁっ

体触ったから

チヨップチヨップ電撃チップチヨップスゝゝゝ

果たして人類滅亡と風チヨップ死、どっちが早いのだろうか

完

* 9話* ゴーレムと山田とアイドルと奈美菜

新感覚ボーリング第四話

ピータ「お次の11投目は最強の肉体美のゴオオーレム様!!!!!!
どうぞ」

ウィーンガシャ
ウィーンガシャ
ウィーンウィーン

おいおい肉体美ってまるっきし機械じゃないか

2メートルはありそうだ、色は黒銀色!!目は赤く光
左手には散乱銃らしきものを装備している、

見た目で行けば刺客候補ナンバーワンである

僕は思わず問う

「その銃何のためだ」

ジューンはすかさず

「勿論殺しの道具さあ」

「×３つ付いたら、こいつに、殺られるのか」
「
」「
」「
」「
」

クツクツク

バババババ
アンってね

会場に悲鳴が鳴り響く！！！！！！！！！！

ゴーレムが天井目掛け散乱銃を発射させたからだ。 ” ” ”

恐怖の増幅材にはこれ以上ない演出だった

そして・・・

ピータ「ゴレム様ストライク」×は赤川奈美菜についたあああ
 「大ピンチの二枚目！！！！！！！！」

死神は笑った
"
"

まるで僕の動揺を掻き発てるかの様に

落ちて着け
・
・
・

落ち着けゝゝゝ

動揺を見せるなゝ
考えるんだ！！
考えるんだ！！

優乃さんと、ゴーヤは、奈美菜を気遣う様に近付き宥めるゝゝ

今にも言い出しそうな口をしていた

助けてゝゝゝと

更に僕の息使いを荒くさせたのは、山田組長だった

山田「先に言っておくが、わしは、仲良しごっこはせーへんからな
ゝゝゝ！！！！先手必勝最初に言った通りゝゝ ストライク取ってゝ

ゝゝ 敵を潰す！……だ。」

その言葉に風、ゴーヤが噛み付く

「ふざけんな！……仲間のピンチにそりやいないだろゝゝゝゝゝ」

極道……

凡人の目とはやはり違うオーラを持っていたゝゝゝ

「其なら、あんたら二人。何万人の身代わりに今舌噛んで死ねるか
！……！……！」

ばっ
ゝゝゝゝゝ

「馬鹿言つなゝゝゝ。そゝゝ。そんな事」

『だったら、黙つとげやあああああああああああああ
あああゝゝゝゝ ああああああああああああ！
！！！！』

「命のやり取りちゅうのはな」
「遊びじゃないんや」
「解

山田組長の言うことは正論だ”

先手必勝
〃
〃

今僕らの守りの仁

飯に今、赤川奈美菜の×を一つにしても、即座に敵は、赤川奈美菜に×をつけるだろう。

そうやってガーター（死）を演出してくる

山田「ほな、行くぜ！こう見えてもボーリング世代なもんでな」
「ちゃっっちゃとストライク取って」

ストライク？なんか引つ掛かる”
”
”
”
”
”
”
”

「いっ今、ストライクは不味くないか」
「」
「」
「」

何故！！！！なぜって順番的に”””

もし本当に山田組長がストライクをだせば、12番手アイドルは、全ピンセットポジションから始まる。心理的追い込みをかけるとすれば・・・意図的に一本残しや、スプリットを作ると仮定、いや、確実にそうするだろう！！！！

次に13番手の奈美菜・・・×2枚の奈美菜。今のその心境で果たして一本のピンを倒せるのか

無理だ！！！！

今ストライク出されたら、絶対まずい

「山田さああん」

今にも指から放ちそうなボーリングの玉を左手で押さえ

こいつをゝゝゝゝ

『僕の話術で飼い慣らしてやる』

「山田さんゝゝ 山田さんの作戦もう一度詳しく教えて頂けないでしょうか・・・」

あんゝゝゝ と威嚇

「いやあね。僕反省したんです。山田さんの作戦・・・いやその熱意を聞いてゝゝゝ さっきの馬鹿二人への喝は凄かった」

呴ゝ 馬鹿って俺か

山田組長はにやけ笑いをした

「わしに、そんな薄っぺららな、嘘は通用せんゝゝゝ 何度も修羅場越えた人間だから解るんだゝゝゝ お前の目は嘘の目だ」

少し歩いた僕は、口を少しならしゝゝゝ
ふううゝゝゝ

っと小さく溜め息を吐き椅子に座り、少し声の出ない笑いを笑った

可笑しかった。。。そうその見透かされる目を演出し、まんまとこいつはゝゝゝそして小さく言うゝ 勿論その目を変えてね

「山田さあんゝ。赤川は、次の1投で・・・」確実に死ぬ」と思いますヨ。勿論、誰のせいでもない・・・。。そう【貴方のせい】でもないのです。」

風「死ぬって汰衣ゝゝゝ 何ふざけた事ゝゝゝ」

『ふざけてなんかない。これまでにない位真剣だ。そして事実を言っている。もはや避けられないだろう。』

この言葉に綾鷹優乃さん赤川春は泣き出した

が・・・当の本人は僕をずっと見ている

その拳がはち切れてしまっうんじゃないかって心配になるくらい力みながら

でっ何だ？と山田は問う

「貴方先ほど・・・自分はボーリング世代だと言った・・・
言いましたよね？」

「ああそうだ！！それがどうした・・・」

「僕はねえ今までの人生で、修羅場、任侠映画みたいなシーンは味わったことはない。だけれども、IT世代の僕らは勝利の法則を知っている……」

少しだけ目が踊りはじめた山田は動揺を隠すように飲み物を僕にぶつけ言った

「勿体ぶるなよ餓鬼があ」

ふん　　つとまた鼻で笑った

『いやあね　　勿体ぶるのが趣味な物で　　』

この糞餓鬼があつとボーリングの玉を高々とあげ

頭力ち割ってやる。と意気揚々と迫る

僕は・・・

「僕は焦らない。焦るのは山田さんあなたの方になるのだから・・・」

わしの方。という事や

「僕は言っただけで、赤川は死ぬと・・・そうあなたの方のストライクの後には、そして、敵は分析を始める。このゲーム僕らサイドでストライクを取ったのは綾鷹さんと、山田さん貴方達二人だけになる。必然的に狙われやすいのは、この二人。強いやつから狙うのは敵を倒す上等手段ですからね。そして僕はさっき言った。赤川が死んだのは誰のせいでもない。赤川のガータ！。つまり本人のせいだと・・・しかし」

『僕も含め少なくとも綾鷹さんと、ゴーヤはお前が殺したと認識せざるを得ない事となる。』

「よつて、今後綾鷹さんが集中攻撃されても、僕やゴーヤが、×を減らす。先に進めない敵サイドはシビレをきらし山田さんを攻撃……でも誰も助けない。大柳さんですら助けないでしようね」彼先手必勝型ですから……そしていずれ」

「ガーター」
「
「
「
「
「
「
「
「
「
死に直結

声のひっくり返った山田は僕に言う

「じゃあじゃじゃどうすればいいんだよ」

「仲間？……いやいや」
「はつきり言いますよ。」

『僕に従うしか貴方の命はないのではないのでしょうか？そう貴方の気に障る、この僕にです。。。そして・・・幾度の死戦を抜けた貴方なら、いや・・・貴方だからこそ。気付いているはずです。このゲームにて、そう・・・自分の死期を悟ってらっしゃるのではないのでしょうか。』

生気の抜けた山田組長は重々しく腰を落とし、この世の終わりを見たかの表情を浮かべた・・・言葉も出ない。そんな山田組長に、僕は この世の始まりの様な笑顔で。。。、

「なあああんてね。。。山田さんごめんなさい」、僕はワガママですよね、。自負はしてるんですよ。いや本当にただ、赤川奈美菜は・・・実は友達でして。どうしても助けたくて。。。それと、もう一つ・・・貴方のボーリングの腕に少しでも嫉妬・・・してたのかもしれませんが。。。本当に申し訳ありませんでした、。あのお・・・因みに・・・その腕を見込みましてお聞きしたいのですが・・・スプリットを」

スプリット!!!!

「スプリットは狙って作れる物何でしょうか??？」

山田組長はこの問いに以外にも直ぐに、でも細々と口を開いた

「いやあ。そんな簡単なものではないけんが・・・」

じゃあスプリット。。。。。。。

『じゃあスプリット、ガチで狙って行きましょう。。。理由は攻め要素に加え山田さんの身の安全確保重視。。。スプリットの利点は、相手サイドのガーターの誘い及び、スピアの阻止!! ストライクに比べれば、遥かに確率減になる!!! スプリット狙いで、それが万がいちストライクになってしまっても。。。それは仕方がないです。。。その時は赤川に笑って逝ってもらうんで』

僕の作戦は

項を描くように。。。

失敗した・・・。

いい方向に失敗したのだ

奈美菜の×が一つに減ったからだ・・・

組長の株は急上昇

女優綾鷹さんに手を握られデレデレに

奈美菜に関しては娘を見るような目で……………

次に出てきたアイドルは、紹介入場と同時に、愛嬌もなくゲームを遂行する……が、わずかに3ピン倒し止まりに終わった……

その後、不安の伴わない奈美菜が、ボーリング玉を放った……いい線は行ったかに見えたが、奇しくも2ピン残しの現実に収まった……

次の投手はジェネラル……そして二周目、×が二つの僕。の番だ……

ふと、僕の心の際をついたかのように、傍観していた凧は言う

凧「ああ残念・・・アイドルなのに、ボーリングでジャージは無しだよな」
凧「生足、生腕、生乳」

チヨップチヨップ電撃チヨップ!!!!!!

春「なあに言ってるの馬鹿!!」

僕もパンチラとかパンチラとかパンチラとか

期待してたのにいい!!!!!!

顔タイプだったから余計にこう

ああああああ

汰衣「最近のアイドルはサービスが足りイイいん！！！！！！！！！！」

おお！！と言ったのは男連中

シラーとしたのは女連中

にやあつとしたのは死神

ジューンだった・・・

*** 10 話* 汰衣とジェネラルイズム新感覚ボーリング 第五話**

イズムとは他の者に多大な影響を与え

その心意気を継承するものである・・・

最終投者ジェネラルその生きざまに誰もが息を飲んだと、世界中で言われている・・・

数ヶ月前、あるイベントホールに呼び出されたのは、世界有数の権力者達だった・・・そう大々的な首脳会談。が其所で開催されたのだ

権力者達は、フリップと、マーカーペンを渡され、中にある巨大ビジョンの前に座らされた。のちにスクリーンに映像が映された・・・

諸君。。。。

コレカラ、ある国で起こった出来事の映像をお見せいたします。
しかと焼き付けて欲しいのです

ザザーこんにち今日わが国の経済成長率はトップクラス、某国を追い抜く
のも時間の問題でしょうゝゝ ザザーザ

ザザー、国民の命がかかってるんだゝゝ 簡単にはOKは出せませ
んよ 強気？強気に行かなきゃ守れない者もありますよザザーザ

権力者達の会場はざわめき始めるゝゝ

「一体、なんの映像なんだ、」

ザザー最近では円高が進み、歯止めが効かないのが現状だ、このまま行くと輸出入産業の悪化を招き世界との交流が、あつあなた方は今、しっかり私の言葉を受け止めておられるのでしょうかザザー

ザザーザ国民達へのマニフェスト、それ事態、撒き餌に過ぎないのです。現在の経済状況には打破が必要？口からでまかせですよ、今の国民は馬鹿ですからね。言っただもの勝ちやっただもの勝ちなんですよ、さあさあお前達先生に御つぎしなさいザザーザ

日本の政治家、しかも、メディアを騒がす程の大物同士だ？

ザザーザまあ先生方今夜は無礼講に行きませんか、こちらが例の、
因みにあちらの件も、早々に願いますよ、ザザーザ

ザザーザ金が降らない!!!!!!!!!!ふざけるな!!!!!!!!!!ちっ
っ　　切りやがった　　畜生が　　これからどう生きろと
言うのだ。月にたったの200万では、腹の足しにもならないじや
ないか　　　　!!ザザーザ

200万!!一体なんの事なんだ

ザザーそろそろ　　ですね　　総理の辞職も時間の問題　　貧欲な
者に興味は向きませぬなあ

やはりここは先生が・・・・・・・・。

因みに先生。例の　　

!!!!!!!!!!何　　

ふざけるな　　そうか!?あんたも、ここまでの男って事だな!ふ
ざけやがって　　所詮その程度か!!。。ザザーザ

会場は、出来事を理解し始める

ザザーザアアゝゝ モウだめダ・・・何をひっくり返してもゝ 底が
ゝゝゝゝ

!!!!!!!!!!!!!!

うるせいゝ 毎日毎日毎日日本当にご苦労なこったぜ

!!!!!!!!!!!!!!

うるせいって言ってるんだ

!!!!!!!!!!!!!!

俺様を誰だと思っているゝゝゝ ザザーザ

ドンドンドン！！！！

ピンポン
ドンドンドン
"
"
"
"
"
"
"
"

ザザザ

•
•
•
•
•
•

ザザザ

ピンポン

ザザー

昨夜中央区日本橋の某高級マンシヨンの最上階にて、包丁で腕を切断したと思われる、遺体が発見されました。先日退陣したばかりの内閣官房長官の「」さんとの事です。

「いやあ衝撃的なニュースでした」腕を切る。いわゆるリストカットとは違い、自殺の強い願望が滲みでていますね」

ザザザ

【以上が商品となります・・・】

巨大スクリーンは消え暗くしていたホールに強い光が灯る。〃〃〃

! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! !

今気付いた
"
"
"
"

明るくなったホールの二階席から360度ライフル銃が設置去れて
いた

メインステージに黒服の一人の男が現れ、自分をジューンと名乗った

「ジューン、今日は、おふざけは一切なしだ……。率直で申し訳ないのだが、墮落し続けた日本を」

『地図上から消してしまおうと思っている』

「兵器は既に用意してある。ただしちよつとばかりの資金と人材を調達したい。手元のフリップに書いてほしい。それは国の値段だ。単位は億になっているから気をつけておくれ。因みにわたくしは勇敢な人。勇敢な人の上に立つものは大好きなんだ。その国は免除するでしょう」

何を言っているのか解らない

資金援助が目的の軍治的圧力なら、今集まる者たちは応じないだろう。第一このジューンは何者なんだ。

どこの国の。

「尚、フリップに書いて一番安い金額をだした者には即座に・・・その者の国に鉄槌を。その後、再入札を行い、尚一番安い金額をだした者の国にも鉄槌を差し上げます」

某ヨーロッパの国の者が言う、銃を突きつける事など、嚇しの一貫にはならない。脅しは所詮威しでしかないのだと・・・そして、フリップに数字を書き込んだ

それを皆に見せたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

大爆笑の渦が起こるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

0

とかかれた文字

それに伴い皆が書き始めた

「0・0000001これ位ならゝゝゝ貧困な国に是非とも寄付させていただきますしょう」

0が一つ少ないのでは？太っ腹だなあと大爆笑していた

それでは締め切ります・・・。

ホールの照明は消され

スクリーンにある街が映し出された

liveと書いてある

ヨーロッパ風だった

綺麗な街並みだ。まるで映画の街みたいに・・・・・・そしてそこに、光は降り注いだ。。。。

大迫力の映画の様な映像の為会場からは多大な拍手が贈られた、ただし一国を除いてだ・・・。

顔色一つ変えないジューンは言う

さあ再入札の刻だと。

しかし、再入札に関して、全ての国々が書き直しを断った・・・
実にいい映画鑑賞だったと

それに対し・・・

[illegible]

さあこれでお開きだ。」「ジューンと言ったな。すっかり損害賠償請求が我々から行くはずだ。」「偽の首脳会談なんて。」「一体どこの組織の誰が仕組んだのかはつきりさせるからな。」「と会場は、盛り上がりを見せていた。・・が

「待ってくれええ
一際でかい

163

ボディガード
”

ただのボディガード風情だった

ジューンは言う

どうしたんだい

ジェネラル殿
”
”
”
”
”
”
”
”
”
”

権力者達と言う

ジェネラル、ただのボディガードにそんな勲章染みたネームはセンスがないと・・・だが。

「いやぁね、君らと違ってオーラを纏っている気がしたんでね。思わず言ってしまったよ【ジェネラル】と。。」

そう・・・わたくしには、見える事があるのだよ。。。それで、ジェネラル殿どうされた?？」

ジェネラル「先程の罵声。。申し訳有りませんでした。私には権力もない、今話をしている事すら、場違いだと解っています。ですが・・・、ですが今フリップに私が書き込むのは有効なんでしょうか」

小さく『どいつもこいつも・・・腐りやがる』と呟きが微かに耳を掠めた。。。とつ次の瞬間衝撃の一言が繰り出された！！

『ルール変更を提示する！』。そうだなあ金額一位以外の国を、全て死滅させる事にした！！世界破滅を遂行しようではないか』

.....

この問題発言後、速やかに尚且つ一番最初に口を開いたのは、何と勝ち抜け確定のした、某アジアのジェネラルだった

発言内容いや！要望はこうだ”

「この会場にいる。自分達以外の人間全員を
今すぐ速やかに射殺してくれえ」

御意

ほんの数分程度だった・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

あんなにも、聞こえた声が・
・
・

悲鳴が

痛音が

静粛に・・・

自由の赤い海の上に立つジェネラルは、自分の国はおろか・・・全世界をも、・・・。

ジェネラル「約束は守ってくれ、勇敢な者の国・・・つまり」

ええ勿論。国は奪わないですよ。

後にジェネラルは、

ジューンの計画

デッドゲームに参加する。

その時その時の政治にそつた

ジェネラルなりの

ジェネラルの政治

ジェネラルなりの

国の守り方の信念に従って

その信念は

信者を増やし

いつしか

ジェネラルイズムなる教団も出来たと言われている・・・

12 番目 投手の

ジェネラルをコンピューターのピータは紹介した

稟とした男は、僕に小声で言った

『少年。大志を抱けと、街で言われたのか？』

と

「答えるに値しない・・・教科書や小説の他に、このゲームの攻略方でもあるのか・・・。。はあ。。違う。そいつは大人達の理想つていう毒なんだよ」

と返す

『少年それでも大志を抱き街へ出ていくのか？』

少しだけ溜め息を吐き

きりがないから、やめよう・・・と言う。。

「私は・・・思う。きっと君と私は手を取り合うべき存在なのだ・・・
・世界は変えられる」・私は味方だあ」

見てみぬ振りする事程、僕の症に合わぬ物もない

「共に地獄の扉でも開こうって言うのか？」

助ける巾を見極め、選択肢にはセンスを伴う

地を創造去れた神々は、その命に終わりを授けた」・

理由、それはより良い世界を創造する為

魅惑の果実は、なぜ魅力的なのか解るか？

そいつは

無駄な枝は切り落とし

無駄な葉をむしり採る

形の悪い果実は落とされ

魅惑の果実は完成する

それが人間世界心理 理想なのだよ！！

そして君はその理想に最も近い・・・。

仲間を見つけては引き込み、敵は突き返す、そう最も残酷に成りうる存在なのだよ！

すると赤川奈美菜が話を挟む

その何が残酷なのか？と

しかし・・・。

テレビを見ているあなた方は、敵役が死んでも、何とも思わない・・・非道な種族だ。いやしょうがないのかも知れない。そいつに慣れてしまったから

そして多野間汰衣はその延長線にて一度人を殺してしまった

憎しみを込め何度も何度も刺しては抜いて、刺しては抜いてま

た刺す

慣れが、貯蓄仕切れず割れてしまったのだ

無

む！！

理想は無

そう言った意味では

『ジューンは、神その者、世界を救う救世主なのだ』

プフっ！！ぶああははははゝゝゝゝ

僕はもう笑いが止まらなくて、可笑しくて可笑しくてゝゝゝ

はあゝは

実はなあ

実は僕はまだ

「【まだ刺客を殺してないからだ】いやっあの時確かについて思った

貴方は。。。まんまと僕のトリックにはまってしまったのだ！！！！
何故ならば、僕は、「デッドゲーム組織」に、潜入、潜伏した。二重スパイをやっていたからだ。。。！！！！驚いたか。。」

その話に乱入したのが風だった

「あああの日新宿で、汰衣が殺した刺客は。。。！！汰衣本人。。
だったのだ」

盗聴偽造。。だと

「まんまと騙されたのがジューンとデッドゲームサイドって訳だ！！！！盗聴殺人行為を目の当たりにした、僕らの策。盗聴偽装。。。
。思っていた以上に。。。。通用しちまったみたいだ！！ジエネラルさん？あなたの話術には、魅力がない。。。だから乗らないし、仲間もごめんだ。。。僕は人を殺した事もないその上、そんな度胸もない。。。第一」

「あんたみたいな大志のない大人が大っ嫌いなんだ。。。。」

ジェネラル「何だっ、この英雄に向かって」

『英雄気取りだっって言ってんだよ、ああ知ってんだぜあんたの話・・・ありや全然駄目だぁ駄目だぁ、駄目すぎてダメ出しすら思い付かん、』

「はよ投げえい」

気抜けた声で山田組長が言う

変則テンポにジェネラルはついていけず

ガーターをだしてしまっただけ！！！！！！！！

「ジェネラル！この世に救世主なんて居ないんだ」そう・・・
毎日生き抜く。。。がむしゃらに、でもお前の言うみたいにあ
えて無理にでも言うならば」

『救世主』【空気】』

なのかも知れないな」

ジェネラルがその場から引いた後、凧は僕に近付き耳元で言った

「二重スパイ・・・どの口が突拍子もない“嘘”を言うんだヨ」

「あははゝゝ 勿論この口だろ。ってまんまと引つ掛かったよなゝゝ 第一、刺客ってどう入るんだ？ オーディションか」

「後、お前ダメダメだつて駄目しかいって無かったじゃねえか！！！！英雄の理由も根本的に知らずに言つたろゝゝ ひでえ奴だ！！！！ああまあ半分はこの風様のアドリブのお陰だろう。後、救世主！！ 空気って何だよゝゝゝ」

『そりゃ空気！！酸素だよ無きや死ぬ』

こんな笑い遇える…… だけど僕は。あの日、本当は新宿で…… 本当に僕は刺客を…… 確実に……

でも後悔はしてない きつぱり言える

赤川や凧……の為なら……

なあこれから先も俺らは

『タエナギ』だよな

ああずっと・・・。

*タエナギ*だ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9137u/>

* タエナギ *

2011年10月9日11時49分発行